

国民体育大会の概要

スポーツ課

1 主催

(公財) 日本体育協会 文部科学省 開催地都道府県

2 目的

大会は、広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力の向上を図り、併せて地方スポーツの振興と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにしようとするを目的とする。

3 開催時期及び開催期間

- (1) 冬季大会：1月～2月、5日間以内
- (2) 本大会：9月～10月、11日間以内

4 実施方式

- (1) 冬季大会と本大会の競技得点の合計を競う都道府県対抗方式で開催される。
- (2) 上記両大会で実施した全正式競技の男女総合成績1位に“天皇杯”、女子総合成績1位に“皇后杯”が授与される。

5 実施競技（競技数）

区分		第70回(2015年) ～ 第73回(2018年)	第74回(2019年) ～ 第77回(2022年)	第78回(2023年) ～ 第81回(2026年)	
本 大 会	正式競技	毎年実施	34	36	36
		隔年実施	4	2	2
		開催地選択	隔年実施対象外から 1競技を選択	休止	休止
		計	38	38	38
	公開競技	4	5	7	
	デモンストレーションスポーツ	開催都道府県が希望する競技			
特別競技	1	1	1		
冬 季 大 会	正式競技	毎年実施	3	3	3
	デモンストレーションスポーツ	開催都道府県が希望する競技			

※ 第78回～81回大会の実施競技は別紙のとおり(第82回大会以降の開催競技については、今後(公財)日本体育協会にて検討)なお、実施競技は4年ごとに見直すこととされている。

6 大会規模等（出典：日体協発行「Sports Japan」による。）

- ・国体参加選手約2万人
- ・観客動員約60万～70万人
- ・大会開催経費約100億～150億円
- ・経済効果約500億～600億円

[第72回(2017年)国体への長野県選手団派遣人数：冬季大会(長野県)250人、本大会(愛媛県)431人]

7 その他

- (1) 戦後の混乱期の中、スポーツを通して国民に希望と勇気を与えようと、昭和21年(1946年)、京都を中心とした京阪神地区で第1回大会が開催された。
- (2) 各都道府県持ち回り方式で毎年開催され、昭和36(1961)年からは、国のスポーツ振興法に定める重要行事の一つとして行われている。(※平成23年(2011)年からは、スポーツ基本法第26条に定められている。)

なお、本県では、昭和53年(1978年)に第33回大会を「やまびこ国体」として開催し、昭和63年(1988年)の第43回京都大会から、二巡目開催となる。